

令和7年度千葉県造血幹細胞移植推進協議会における開催結果概要

1 日時

令和8年2月19日（木）午後6時から午後7時20分まで

2 場所

Web開催（Zoom）

3 出席委員

三村委員、落合委員、奥山委員、梅田委員、鎗田委員、串間委員（代理：塩原委員）、高木委員

4 議事概要

■ 報告事項

造血幹細胞移植推進事業実施状況及び現状について

<質疑応答>

（委員）

bayfm ラジオと千葉テレビで広報活動を行ったとのことだが、番組内で取り上げるコーナーがあったのか、CMで行ったのか。

（事務局）

番組内で取り上げるコーナーがあったというよりは、CMのような形で、数十秒程度の短いものとなるが、放映していただいた。

（委員）

後ほど話があると思うが、今後はスワブを郵送することによって、オンサイトでなくともドナー登録ができるようになることは非常に期待できる。今までは献血に行っている方が、ドナーに登録するパターンが多かった。献血者を増やすことも大事なので、献血のついでに登録してもらうのが一番よいのはもちろんだが、骨髄バンクに直接登録する道ができたことは良いことである。

（委員）

ボランティア団体として、骨髄バンクの普及啓発を薬務課や千葉県赤十字血液センターに御協力いただいている。

色々なリーフレットやパンフレット、ポスター等を高校やその他の学校等に配布、掲示をいただきお礼申し上げます。

■ 協議事項

令和8年度造血幹細胞移植推進事業実施計画（案）について

<質疑応答>

（日本骨髄バンク）

学校に力を入れてPR等をしていただき、リーフレットの作成やドナー休暇制度の事業者への声掛けについて十分な御協力をいただいているが、学校を休む学生の公欠制度の導入も促したいと考えている。現在、全国で公欠制度を取り入れている学校が18校に留まっている。令和7年の4月に各学校に向けて、文部科学省から「学生が骨髄バンクドナー候補となった場合における教育上の配慮について」として、実際にドナー登録をしている学生が、ドナーの候補者となり、学校を休むことになったとき、補習やレポート提出等を活用することで、学生が安心して提供できる環境を作ってくださいという旨を通達している。もし可能であれば、公欠制度についても県からの呼びかけを検討していただきたい。

(委員)

非常に大事なポイントだと思う。実際には大学が中心になるのか。

(日本骨髄バンク)

実際には文部科学省の高等教育局大学振興課長から各都道府県知事や大学、高校、専門学校等に向けて文書を出しているため、ドナー登録ができる年齢の方が在籍できる学校とさせていただくと分かりやすい。

(事務局)

県からポスター・パンフレット・リーフレット等を定期的に送付しているが、その対象に高校、大学、専門学校の方が含まれている。これらの送付の際の通知文等でドナー公欠制度についても触れていく方向で検討したい。

(委員)

ドナー支援補助金で実際に採取に至らなかった方の通院や検査等についても、補助できるようになったことは素晴らしいと思う。ドナー休暇制度を採用する企業側のメリットはどのようなものがあるのか。やはり社会貢献をアピールできることか。

(事務局)

大きなメリットがあるというよりは、社会貢献の側面が強いと思われる。その社会貢献に報いるために、県では補助金制度を拡充し、ドナー休暇制度を導入した企業で実際にドナーがいた場合には、補助を出すこととしている。

(委員)

企業からすると、社会に貢献していることをアピールする機会は大事だと思う。例えば、千葉県のホームページにドナー休暇制度を実施している企業の一覧を掲載するというのはどうか。

(事務局)

ドナー休暇制度を導入している企業自体は、現在、日本骨髄バンクのホームページに掲載されている。年度ごとに補助を行った企業を公開することについては、個人の特定につながる恐れがあることから難しい。

■ その他

スワブトライアルについて

<質疑応答>

(委員)

ドナーに登録のきっかけを伺うと、大体の方は献血歴があり、そこで登録されている。自己血採血や末梢血ではその場で針を刺され、そういったことに比較的慣れている方がドナーになっている。一方、スワブでは献血歴がない方が登録されてくる。その方がいきなり自己血採血や末梢血となるとハードルが高いのではと思っている。もちろん登録していただくのは大事である。

(日本骨髄バンク)

骨髄バンクのドナー登録の窓口を献血の現場にしていると、もともとそういった気持ちがあり、腕に針が刺さることに抵抗がない方が登録することになる。スワブについては採血するのが嫌だからスワブにしようとしても最終的に腕に針を刺すという工程は末梢血幹細胞でも骨髄でも必ず発生する。スワブで登録することによる今後のメリット・デメリットは未知数である。ただ、効果として、献血が全部終わった後にドナー登録したい場合や、登録会場で説明を受けた後少し考えたいと持ち帰った場合に、そういった方が、スワブの申し込みをすればもう1回改めてドナー登録のために窓口に行く必要がない。また、地域性があり、千葉県内は献血バスが沢山出て登録の窓口が多いが、場所によっては年に2回、半年おきの献血バスでしか献血する機会がないという方では、優位性があると考えている。

(委員)

是非スワブで登録した方の献血歴を知りたいところである。

(日本骨髄バンク)

申込用紙に書くところがないので、なかなか難しいところであるが、御意見については共有したい。

(委員)

献血歴がない方はこれをきっかけに献血にも足を踏み入れていただきたい。

千葉骨髄バンク推進連絡会の活動について

<質疑応答>

(委員)

ドナー登録のきっかけを聞くと、献血会場で声を掛けられた・説明を受けたという方がかなり多い。協議会の皆さんの努力がドナーの増加につながっていることを実感している。

(事務局)

御要望について、ドナー休暇制度については引き続き県内経済関係団体に通知文を
発出するなど、働きかけを継続して実施していきたい。

説明員養成講座については来年度も実施予定を組んでいるため、是非御協力をいた
だきたい。

(千葉県赤十字血液センター)

献血併行型登録会について、大学の会場を増やしていくことには今後も取り組んで
いきたい。また、献血時の登録会開催の声掛けについてもさらに徹底していきたい。